

## 中高一貫教育活動の紹介 揖斐川中学校・北和中学校

11月20日に揖斐高校で元揖斐厚生病院看護部長の森咲子様を講師に迎え『先輩と語る会』(若者への夢のメッセージ)が開かれました。揖斐高校の体育館には揖斐高校、揖斐川中学校、北和中学校3校の生徒が参加して実りある会となりました。次は参加した生徒の感想です。

「私たちは揖斐高等学校の先輩である森さんからお話を聞きました。森さんは、お話の中で『私は就職試験に一人落ちてしまいました。落ちたままですが、落ちていなかったら今の看護師にはなっていなかったし、ここで講演することもありませんでした。』とおっしゃっていました。



私はこの言葉が強く印象に残っています。私たちも今、受験という大きな壁にぶつかっています。いろいろな場面で迷ったり不安になったりすることがありますが、森さんのお話のように、失敗しても気持ちを切りかえ、進路選択をして、その実現に努めたいと思っています。」

(揖斐川中学校3年生)

また揖斐高校では、中高一貫交流事業の一つに、福祉体験学習を年4回開催しています。次は実際に体験した生徒の感想です。



「私は、揖斐高等学校の福祉体験学習に2回参加しました。その中で、一番心に残っているのは、視覚障害者の歩行介護の体験です。実際にアイマスクを付けて杖を持ちます。杖は、周りにあるものを確認するためのものです。歩き始めると、目に障害がある方の気持ちが始まらずに分かりました。自分がある場所や状況が全く分からないのです。誘導者の人に確認を取らないと一歩踏み出すことも怖いのです。誘導する体験もしましたが、相手に不安を与えないようにするのがとても難しく感じました。

この体験を通して、初めて視覚障害者の方の不安を体感することができました。普通に生活しては知ることのできない気持ちを知り、障害者の方のためにできることを考えるきっかけとなりました。



体験で知ったこと、感じたことを忘れず、これから周りの人とかかわりながら生きていきたいです。」

(北和中学校3年生)

## 狂犬病にご注意を

狂犬病は、発病するとほぼ100%死亡し、治療法がない恐ろしい感染症です。

日本では、野犬対策などの徹底により57年以後患者の発生はありませんでしたが、06年8月にフィリピンで犬に咬まれ、日本に帰国後11月に狂犬病を発病し、死亡した例が2件報告されています。世界では狂犬病により年間4万人、6万人が死亡しており、欧米を含む世界の大陸に現在も存在し猛威を振るっています。

### ◎予防方法、咬まれた時の対応

#### 1 動物に手を出さないこと

日本では、狂犬病が撲滅されて久しく、その危険を軽視しがちです。日本人は犬や猫を見ると無防備に手を出し、なでたり、手から直接エサを与えたりします。しかし、狂犬病はほぼ世界中で見られ、毎年死亡者が出ておりますので、むやみに野犬や野良猫、野生動物に手を出さないようにしましょう。

#### ※狂犬病に感染した犬の特徴

狂犬病の犬はむやみに歩き回り、柱などの物体に咬みついたり(この時期の犬は攻撃的で、わずかな刺激で咬みつきます)、地面を無意味に掘る、狼のような特徴的な遠吠えをするなどの異常行動をとります。

また、流れるようにヨダレを流すようになり、水を飲むと、のどがいれんじ苦しむため、水を極端に怖れるようになります。

#### ※犬以外の感染動物

アメリカライグマ、スカンク、

コウモリ

ヨーロッパキツネ

アフリカジャッカル、マングース

(猫や馬、牛なども感染し、感染源になることがあります)

#### 2 咬まれる前のワクチン接種(暴露前接種)

旅行先で動物に積極的に近づく場合は、事前に狂犬病ワクチンを接種しましょう。

#### 3 咬まれた後の接種(暴露後接種)

狂犬病のおそれのある動物に咬まれたら、すぐに傷口を石けんと水でよく洗い、できるだけ早く病院で傷口に治療と、狂犬病ワクチンと抗狂犬病ガンマグロブリンを投与します。(発病前であれば効果があると考えられていますので、忘れずに接種してください。)

また、咬まれたのが飼犬の場合は、犬が予防接種を受けているかを飼主に問い合わせることも必要です。